

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693100014		
法人名	有限会社 ティー・エム・メディカルサービス		
事業所名	グループホーム かいで		
所在地	京都府向日市鶏冠井町祓所67番		
自己評価作成日	平成22年6月9日	評価結果市町村受理日	平成22年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=2693100014&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療と介護を通して命が輝き、安心と安らぎの終の棲家を使命とします。常に本質を見極め、本音の交流を深めながら、信頼に基づく事業運営を目指します。かけがえのない命の尊さを学び、共に成長しあう喜びを共有出来る風土をつくります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>在宅療養支援診療所を母体に持ち、小規模多機能型居宅介護事業所を併設するグループホームです。母体の理念をもとに運営理念と分かりやすい社訓を作り、常に理念に立ち返りながら、「その人らしく」を第一に考えたケアを実践しています。地域とは、区の自治会に参加し、日ごろの事業所周辺清掃、ボランティアや小・中学校の職場体験の受け入れ、幼稚園との交流、夏祭りの開催、福祉先進国のスウェーデンより講師を招いての研修会を実施し地域の方にも参加していただくなど、積極的に交流、地域貢献をしています。各種職員会議や委員会で話し合いを重ね、すべての職員が一人一人の利用者について適切なケアサービスを行うよう取り組んでいます。職員はスウェーデンで研修を受講したり、セラピードッグをケアに取り入れたりと、常にケアサービスの向上に取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示すると共に事業計画書の説明を行い理念の共有・実践につなげている	母体の在宅療養支援診療所の理念をもとに、運営理念とわかりやすい社訓を作り、利用者や職員が常に目につく場所に掲示している。各種職員会議や日々の話し合いで、具体的な事例をもとに、理念を振り返り、職員全員で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道行く方々への挨拶、周辺の清掃、ボランティア・職場体験の受け入れ	区の自治会に参加し、日々の事業所周辺の清掃、小・中学校の職場体験の受け入れ、幼稚園との交流、ボランティアの受け入れ、夏祭りやお餅つきの開催など、積極的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉先進国のスウェーデンより講師を招き認知症ケアについての研修会を開催し地域の方々にも参加して頂いた。キャラバンメイトの一員である。6/30サポーター養成講座「地域井戸端会議」を開催する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のケアプランについて話す中で「初釜」という声が上がりましたが職員だけでは行えず民生委員（運営推進会議メンバー）の方々にご協力を頂いて「初釜」が実施出来た。茶道同好会（利用者、職員含む）の発足に繋がろうとしている。	地域包括、民生委員、家族代表、利用者代表等が参加し、実施し、事業所の現状報告や取り組み、行事、事例報告などを行っている。「かいで通信」を毎月発行し配布している。また、運営推進会議のメンバーである民生委員の協力を得て、初釜を実施するなど、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係機関に出向きサービスの実情や要望を話し担当者との関係構築を行なっている。	グループホーム連絡会には行政が参加している。また、関係機関に出向いて、サービスの実情や要望を伝えるなど、担当者と協力関係を築くよう、取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の場において身体拘束の具体例や拘束しないケアの工夫を考え実践している。玄関の施錠は夜間の防犯対策時にみ行なっている	会議にて、身体拘束について日々のケアから具体例をあげながら、職員全員で話し合っている。1階の小規模多機能事業所と2階のグループホームは行き来が自由であり、職員が協力し合い、見守りを強化することで、身体拘束をしないケアを実践している。玄関は夜間のみ施錠である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時の全身チェックにおいて異変の早期発見に注意を払っている。		

グループホームかいで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネは社協の研修で学んでいる。また成年後見制度を利用して実際に後見人を立てておられる方がいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでのプロセスにおいて十分な説明を行い理解・納得の上、契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置している。家族が来所時には声かけを行い家族と職員の接点を持ち意見や要望の聞き取りを行なっている。	家族が事業所に来た際に、時間をかけて話し合いを行い、意見や要望を聞きとっている。また、月に2回の診察日には家族が立ち会うので、その際にも交流ができるよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議(チーフ、ユニット、各種委員会)の中で意見や提案を聞く機会を設け検討し反映させている。	毎月のユニット会議で全ての職員が意見を出し合い、月2回のチーフ会議、代表会議で職員の意見を反映させる仕組みになっている。また、各種委員会があり、全ての職員が必ず何かの委員を担い、意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の工夫 目標管理活動の導入		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設け内外の研修を受ける機会を確保している。土曜日の午後に職員が講師となり職員が要望する内容でスポット研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中にグループホーム連絡協議会があり相互交流を行なっている。		

グループホームかいで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センターシートを活用し利用者本人の情報を家族より聴取・整理しケアプランに生かしながら理解を求める取り組みをシステム化している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談には十分な時間をとり家族の意向把握に努めている。その後も面談という形式にとらわれず話し合いの場を持ち関係作りを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは家族等からの聞き取り情報と職員による観察の目で自立支援(出来る所はご自分で、出来ない、不安な所は介助)に努めている。土井医院との連携		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニフォームは作らない その理由は利用者の尊厳・共同生活という理念に基づいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に二度、診察日に家族が立ち会うその際に家族との交流の場となる様な工夫を行なっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人や知人の面会や外出支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容院へ行ったり、お墓参りに行くなど、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や身体能力を考慮してプログラム作成を行なっている		

グループホームかいで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを共に行なった家族は一周忌報告の為にわざわざ来所して下さい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センターシートを利用して情報収集に努めその人らしさを大切にされた個別ケアを行なっている。	センター方式を一部活用してアセスメントを行い、利用者の情報収集に努め、その人らしさを大切にされたケアサービスに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センターシートを利用して情報収集に努めその人らしさを大切にされた個別ケアを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センターシートを利用して情報収集に努めその人らしさを大切にされた個別ケアを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	パーソン・センタード・ケアによるセンターシートを活用しそこからの情報収集を行なっている。職員からの情報収集を基にユニット会議を行い、ケアプラン作成を行なっている。	アセスメントに基づいたケアプランを作成している。モニタリングとプランに対する評価は3カ月毎に行い、ケアプランも基本的に3カ月毎に更新している。一人の利用者に対してすべての職員がモニタリングを行い、その情報を集約してモニタリングを行っている。	本人と家族の希望や意向は、ケース記録に記入されていますが、ケアプラン自体に記録されることが望まれます。職員全員が利用者や家族の希望をより共有し、ケアプランに希望が反映されていることがわかりやすい書式の工夫が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを実践してその後どうであったかをスタッフ全員で取り組み次回のケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの「昔は家族と一緒に良く温泉に言ったなあ」の何気ない声を職員が聞き入れ日帰り温泉旅行に出かけた甲子園球場での野球観戦		

グループホームかいで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	精米や買い物へと積極的に地域へ出掛けしている。地域の介護相談員さんに来て頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院が母体であり医療連携は常に行なっている	本人や家族の希望を聞き、適切な医療が受けられるよう支援している。また法人の母体が医院であり、月に2回の訪問診療があり、24時間体制で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的なケアの関わりの中での気づき発見は看護師に報告し必要ならばかかりつけ医と連携を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前カンファに出席し病院関係者との医療連携を行っている。本人及び家族の退院後の不安軽減に努め利用者の状態変化によるケアの注意点を職員に徹底している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医が同席にて終末期のあり方について本人・家族の意向を聞き取りその時点での方針を決定している	看取り指針を作成し、母体の医院と連携して家族の意向を聞き、方針を決定している。母体のドクターによる研修実施やドクターがユニット会議に出席し、職員間で話し合いを重ね支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練、普通救命講習を定期的に行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画書に従い、又所轄消防署の指導の下に防火チェック、避難訓練を実施している	年に2回、消防署による指導のもと避難訓練を行っている。消防訓練の前には、管理者が近所に挨拶を行っている。又、防火チェック表を用いて火災の元は徹底的に注意しており、火災通報専用電話機、火災通報装置も設置するなど、細心の注意を払っている。	

グループホームかいで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重する為に介護する側、される側の差別化となる制服を採用していない。接遇マナーに力を入れている	接遇、マナーに関する研修を年間計画に盛り込み、実施している。「接遇5原則」を事務所に掲示し、常に気を配るようにしている。職員の利用者に対する話し方や態度は、笑顔で、落ち着いてゆったりと接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を常に聞き取る姿勢で働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのやりがいを見つけ個別プログラムを実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ケアプランの中でその人に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るように位置づけてスキンケアや外出前の化粧(紅をさす)等のおしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝のヨーグルト作りに始まり夕食の下膳まで職員と一緒にいる	職員は、同じテーブルで見守ったり、楽しく話をしたりしながら、同じ食事を摂っている。朝には利用者と一緒にヨーグルト作りをしたり、季節の行事食やお誕生日食なども利用者の希望を聴きながら行っている。また、代替食、ミキサー食なども利用者の状態に合わせて行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に適した食事形態(刻み、とろみ)にて提供している。丼物が嫌いな方には分けて提供する等の支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの外部研修を受けそれに基づく毎食後の口腔ケアは欠かさず行っている。		

グループホームかいで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて排泄パターンを把握すると共にトイレ誘導を全ての方に実施している	排泄記録表を作成し、さりげない誘導や声かけで全ての利用者にトイレ誘導を行っている。利用者の状態に合わせて、普通の下着、紙パンツやパットを使い分けながら、自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がタップリな寒天を積極的に導入し便秘予防に取り組んでいます。寒天ドリンクを定期的に飲用されている方はお通じの改善が見られています。お腹のマッサージや保温を適宜行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな時間は決めてはその人のタイミングに合わせて1階2階のお風呂を使用して気分転換を行なう事によって楽しんで頂いている。一人ずつ入浴して頂いて利用者や職員の大切な触れ合いの場となっている。	「安全、安心、清潔」をモットーに、午前・午後・夕方の時間帯に利用者の希望に合わせてゆっくり入浴していただいている。1階の小規模多機能事業所と2階のグループホームにお風呂があり、どちらも使用できる。ゆず風呂等も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠、歩行状態等による個々の体調に合わせて適時休息して頂いている。昼夜逆転にならない様に日中は活動し夜は安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表による管理を行なっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事計画。お誕生日会では嗜好品を取り入れたメニュー作りを行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の特養へ出掛け喫茶を利用したり外食、買い物へ出掛けている。家族の協力を得て温泉、USJへの日帰り旅行も行なえた。	地域の特養が喫茶を実施しており、定期的に利用したり、外食や買い物へ出かけるなどしている。また、花見、紅葉狩りなど季節毎の外出行事や、家族の協力を得て温泉やUSJへ日帰り旅行も実施し、喜ばれている。	

グループホームかいで

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出掛けた時にはレジでの支払いをお任せしている方もいらっしゃいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い等が届いた時に返事を書かれたり、お誕生日のお花をDrからプレゼントされた際にはお礼状を書いて直接手渡しされました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	色鮮やかな海水魚が泳ぐ水槽があったり柔らかな光が差し込む様にとスタンドグラスを使用して暖かな癒しの空間演出を行なっている。環境委員による掃除チェックシートを活用し美化に努めている。職員の持ち寄りによる生花が絶えない。床暖、柔らかな床、インテリアコーディネーターによる落ち着いた色彩(壁紙、カーテン)、植栽、花壇、プランター	リビングの窓は、利用者の家族の工房で作成したスタンドグラスを使い、柔らかな光が差し込む空間を演出している。庭には花や野菜も植えられ、利用者や近所の方によって世話されている。セラピードッグが同じ空間にいることも利用者に喜ばれ安らぎになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事、レク等の際には座席の配慮を行なっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、馴染みの物を持参されている	居室入口には、ボランティアが作成した利用者の似顔絵や、各々が居室を認識しやすい模様のスタンドグラスがある。布団やベッドは好みにあわせて使っていただいている。タンス、テーブル、椅子、写真や飾りの小物類も持参され、心地よく過ごせる空間作りができています。寝具のカバー類の交換も定期的及び随時行い、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には各々のスタンドグラスを使用し居室の差別化を行なっている。		